

熊野古道をフィールドワーク

串本古座高校 世界遺産教育で 歴史や信仰学ぶ

串本町の串本古座高校は、このほど、那智勝浦町の大門坂から那智の滝までをフィールドワークで歩いた。生徒は世界遺産に登録されている熊野古道を歩き、歴史や信仰について思いを巡らせた。

総合的な学習の時間で取り組む世界遺産教育の一つ。串本校舎74人、古座校舎69人が参加した。県世界遺産センター主任の速水盛康さんから事前に学び、臨んだ。

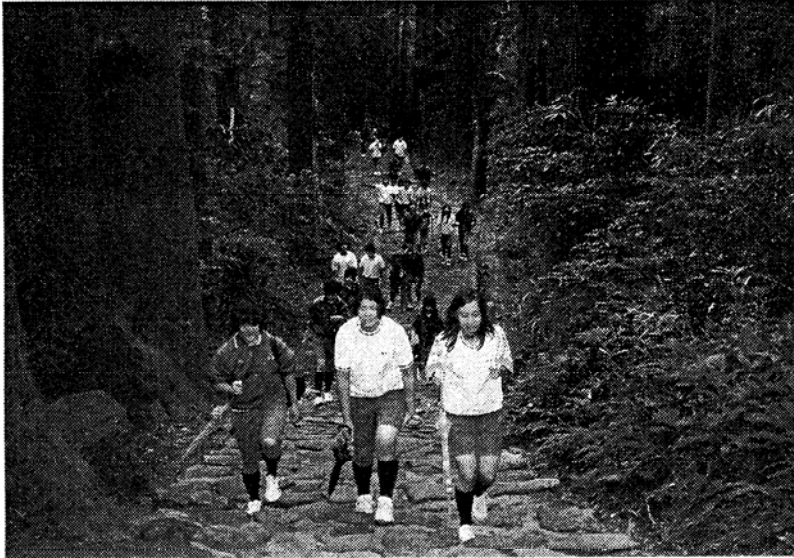
生徒は地図を手にして、こけむした長い石段を上り、熊野那智大社や青岸渡寺を興味深く見た。3カ所にチェックポイントが設けられ、たどり着くと担当の教諭に通過確認のシールを張ってもらった。

今回のフィールドワークは、手渡されたワークシートの問題に答えながら進む形式。「大門坂の入り口にある夫婦杉と呼ばれる巨木は樹齢

何年」「神社と寺が一体となった形を何と云うか」など、

事前学習で学んだ内容や、現場の案内板で調べなければ分からない問題があった。

生徒は頭をひねったり、友達と協力したりして全問正解を目指した。ワークシートは回収し、後日、授業で解説した。



こけむした石段を上る生徒（那智勝浦町で）